



研究部会報告

●OR/MS とシステム・マネジメント●

●第21回

日時：1月10日(土) 13:30～16:30

場所：構造計画研究所会議室，出席者：19名

テーマと講師：新経営情報システム——DCCについて
小島敏宏（和歌山大学）

経営情報システムの発展過程を事務処理のためのシステムと意思決定のためのシステムとに分けて整理することによりDSSが明確に位置づけられること，さらにDSSが半構造的な問題解決プロセス(理解サイクル)に対するサポートであることなどの特徴が明らかにされた。

●第22回

日時：2月14日(土) 13:30～16:30

場所：東京工業大学システム科学専攻ゼミ室，出席者：15名

テーマと講師：組織文化と組織学習 渡辺慶和（産業能率大学）

組織文化は，組織内での人間行動を規制する行動様式のシステムであること，そして，組織文化の構造変化の引金として，組織学習に着目すべきであることにもとづき，組織学習の自己組織性や組織学習のサイクルなどが明らかにされた。

●第23回

日時：3月14日(土) 13:30～16:30

場所：同上 出席者：17名

テーマと講師：文献講読 Galbraith, J. R., "Organization Design", Chap. 1, 2. 山田善靖（東京理科大学），太田敏澄（豊橋技術科学大学）

企業における情報システム実施に関する基礎的な文献として，情報処理パラダイムにもとづく本書を分担して講読することとした。

第24回

日時：4月11日(土) 13:30～16:30

場所：同上 出席者：14名

テーマと講師：文献講読 Galbraith, J. R., "Organization Design", Chap. 3, 4, 5. 加藤敏雄（日本IBM），井上一郎（日本電気），高井英造（三菱石油）

前回に引き続き文献講読を行なった。

●第25回

日時：5月9日(土) 13:30～16:30

場所：東京工業大学システム科学専攻ゼミ室，出席者：18名

テーマと講師：文献講読 Galbraith, J. R., "Organization Design", Chap. 6, 7. 堀内正博（新潟大学），渡辺慶和（産業能率大学）

前回に引続き文献講読を行なった。

●第26回

日時：6月20日(土) 13:30～16:30

場所：同上 出席者：17名

テーマと講師：文献講読 Galbraith, J. R., "Organization Design", Chap. 8, 9. 丹羽清（日立基礎研究所），松本康男（三和総合研究所）

前回に引続き文献講読を行なった。

●第27回

日時：7月10日(金)～12日(日) 合宿

場所：箱根・ラフォーレ強羅，出席者：16名

テーマと講師：文献講読 Galbraith, J. R., "Organization Design", Chap. 10-15. 梅原英一（野村総合研究所），後藤哲史（日本電気），大村雄史（住友商事），丹羽清（日立基礎研究所），海辺不二雄（東芝リサーチ・コンサルタント），渡辺慶和（産業能率大学），加藤敏雄（日本IBM）

文献の集中的な講読と情報処理パラダイムの応用に関する討論を行なった。

●第28回

日時：9月5日(土) 13:30～16:30

場所：三和総合研究所会議室，出席者：23名

テーマと講師：味の素社におけるマーケティングのエンジニアリング化 山中正彦（味の素）

新製品・新事業に関する開発マーケティングの重要性の指摘と，プリテスト・マーケティング・モデルであるASSESSORについて，事例にもとづく紹介などがあった。マーケティングにおける創造性とロジックに関し，エンジニアリング化の可能な領域のあることがわかり，実施理論的考察にとって有益であった。

●第29回

日時：10月3日(土) 13:30～16:30

場所：東京工業大学システム科学専攻ゼミ室，出席者：14名

テーマと講師：文献講読 Galbraith, J. R., "Organization Design", Chap. 16. 加藤敏雄 (日本IBM)

文献講読を行なった。

● 第30回

日時：11月14日(土) 13:30~16:30

場所：同上 出席者：11名

テーマと講師：文献講読 Galbraith, J. R., "Organization Design", Chap. 17, 18. 渡辺慶和 (産業能率大学), 高井英造 (三菱石油)

文献講読を行なった。

● 交通・流通システム ●

● 第5回

日時：9月17日(木) 18:00~20:00

場所：東洋経済新報社会議室(日本橋) 出席者：11名

テーマと講師：これからのJ R貨物輸送について 橋元雅司 (日本貨物鉄道㈱代表取締役社長)

世界先進国で鉄道100年を黒字でむかえた国はなく、鉄道事業の民営化は世界の潮流である。今年4月に国鉄から民営化したJ R貨物は、従業員12,500人から、2~3年後には8,000人体制までに削減の予定。営業的には、6つのプロジェクト(プロジェクト名はそれぞれ、①ターミナル・ルネッサンス、②63.3輸送改善、③秋冬期対策、④輸送近代化、⑤コストダウン、⑥貨物営業トータル情報)に取組み、黒字への転換に努力している。

第6回

日時：10月15日(木) 18:00~20:00

場所：同上 出席者：8名 テーマと講師：出版業の流通 藤井真人 (東洋経済新報社出版局長)

出版流通業界は2兆5千万円産業で、たずさわっている人は6万人にのぼる。出版物の特色は、代替が効かないこと、見込み生産であることから、書店での品揃えが優先されるあまり返品率が50%(注文を含めると36%)にも達するといわれている。出版社は4,258社に対して、中をとりもつ取次店が非常に少なく(東販・日販で80%のシェア)書店が13,024店(いずれも61年度末)と変則的な流通形態になっている。

● 数理計画 ●

● 第18回

日時：10月31日(土) 14:00~17:00 出席者：19名

場所：統計数理研究所

テーマと講師：

- 1) 「線形順序づけ問題について」久保幹雄(早稲田大学)
- 2) 「減衰型連続ナップザック問題」鈴木久敏(東京工業大学)

内容：1)線形順序づけ問題の応用例、過去の最適解法、近似解法をサーベイした後、分枝限定法にもとづく最適解法が提案された。下界値の導出が最大流問題に帰着できることと良い初期解を求める近似解法が中心に解説され、計算実験の結果が報告された。

2)入れるものの数が増えるとナップザックの容量が減少する減衰型ナップザック問題の線形緩和問題に対し、従来より強力な問題縮小法と双対問題の考察にもとづく解法が解説された。提案された解法は幾何的に容易に説明可能であることが示され、さらに容量と個数との関係を表わす減衰関数が凸、凹関数の場合が考察された。

● 日本的システム科学 ●

● 第32回

日時：11月7日(土) 14:00~17:00 出席者：9名

場所：八丁堀東京都勤労福祉会館

テーマと講師：「中国と日本；昔と今」上田亀之助(上田イノベーション研究所)

日本というシステムは中国・ソ連・米国という世界の三大国家システムに取りかこまれた一小システムです。ロシアとのつきあいは180年、アメリカとのそれは、まだ130年にしかすぎません。しかし、中国とのつきあいともなりますと、すでに2000年になるらしいです。そこでこの古いつきあいの今までとこれからを展望してみます。